

 <h1>マイスター通信</h1> <p>chance ! challenge !! change!!!</p>	<p>寒河江市立 寒河江中部小学校 マイスター通信 No. 5 令和8年6月8日 文責：軽部 隆一郎</p>
--	--

## キーワードは「子どもの声」3年2・4組の授業から学んだこと

先週3年生の算数の授業にT2として入らせてもらい、感じたこと・考えたことは、「子どもの声を聴くこと」です。当たり前のことかもしれませんが、やはりこれが一番大事だと改めて感じました。

### □3年4組の授業から学んだこと

- ・わり算の学習で、やはり具体物、半具体物の大事さを感じました。黒板に奏生先生がおはじきを貼りました。子どもたちの視線は、一気に黒板に向きました。やはり音声言語や板書の文字だけではなく、操作する学習活動を入れること（特に低学年）で、思考が整理され、アウトプットしやすくなると感じました。さらに、おはじきを動かした経験が中学年、高学年になった時の念頭操作の基盤になると感じています。
- ・立式の際に、「 $12 \div 4$ 」と「 $12 \div 3$ 」の2つの考えが出ました。奏生先生の当初の授業プランの中にはおそらく無かった流れだったと思うのですが、**子どもの声を大切に**して、「**どっち（の式が正しいか）な？**」と子どもたちに投げかけました。その点がとても素晴らしかったと思います。授業研でもよく見る光景ですが、指導案どおりに進めたいとなると、そこから外れた子どもの声がないがしろになってしまうことがあります。私はこれまで先輩から、そのような時には子どもの声（思考）に乗っかることが大事だと学びました。奏生先生も子どもの声を大事にして授業を進めており、感心しました。

### □3年2組の授業から学んだこと

- ・1か月前にお邪魔した時よりも、子どもたちがとても落ち着いており、学習に向かう姿勢がとても良くなっていました。凌冶先生にどんなことを意識したのか聞いてみると、「クラスの約束事などを子どもたちとのやり取りで決めて、それをみんなで守れるようにしている」というようなことでした。教師側が一方的に決めるのではなく、**子どもたちの考えや声を丁寧に受け止め、みんなでつくり上げたこと**で、子どもたちは自己存在感を感じることができ、安心して学習に取り組めるようになったのではないかと思います。また、この合意形成は「学級活動（1）」の肝であり、とても大事な考え方だと思います。

ます。

- ・ 凌治先生の板書のペースも、子どもたちの様子を見ながら、子どもたちに合わせて書いており、子どもたちのことを思うあたかさが感じられました。小さなことかもしれませんが、子どもたちはそのような教師の姿を敏感に感じ取っていると思います。

### □5年1組の授業から

小数のかけ算の学習で、「かける数が1より小さいとき、積はかけられる数よりも小さくなる」という授業を行いました。教科書の問題場面は「1 Lの重さが400 gの土、1.3 Lと0.6 Lの重さは？」というものでしたが、まず私は「かけ算のイメージ」を子どもたちに聞いてみました。子どもたちからは「九九」や「倍」などの言葉が出てきたため、エルモで「カップ麺」と「洗剤」の画像を写しました。1.5倍や2倍、5倍などの文字があり、子どもたちからも「多くなる」「増える」という言葉が出てきたので、「かけ算って増えるだけ？かけたのに減ることもあるの？」と投げかけ、やや強引ですが、、問題文に入っていました。

1.3 Lの時は、積がかけられる数よりも増えて、0.6 Lの時には減ることを確認した後、「0.8 Lの時は？0.9 Lは？0.99 Lは？1.1 Lは？」と次々に投げかけました。子どもたちは「減る！減る！減る！増える！」と即答したため、「どうして計算もしないのに、そんなにすぐ増えるか減るか分かったの？」と問いました。（私としては、これが本時の本物の「問い」と考えていました。）その後は、板書の写真のように、「かける数が1より大きいか小さいか」について、子どもたちが自分の言葉で語っていきましました。子どもたちの言葉の中に、数直線が出てこなかったため、最後に数直線の有用性について、私から教科書を使って伝えました。

